保存版

萩市 高潮ハザードマップ

03 越ヶ浜・大井

ハザードマップを確認して事前に備えよう！

令和8年2月発行

萩市 HAGI

台風と高潮の関係

はじめに

高潮災害は、大雨や洪水に比べると発生数は少ないですが、一度発生すると大きな被害につながる災害です。萩市では、日本海を通過する台風や低気圧と満潮が重なったときに高潮のおそれがあります。近年では、令和2年台風9号（須佐地区）、令和4年台風11号（江崎地区）で高潮による浸水被害が発生しています。

台風や低気圧の接近時には、潮位上昇よりも先に暴風が吹き始め、屋外への避難が困難になります。災害から身を守るために、このハザードマップを活用して、早めの準備・安全行動をとりましょう。

高潮災害に備えるにゃん！

本マップの使い方

1 家の位置を確認し、周りの危険性を把握しよう

あなたの家の位置をマップに書き込んで、災害リスク（浸水想定区域）を確認しましょう。
家の周りに河川や用水路などの危険な場所がないか把握しておきましょう。

2 避難行動を確認し、避難先を選ぼう

とるべき避難行動を紙面左下の「ハザードマップを確認」で確認しましょう。
最寄りの避難先を複数選びましょう。

3 実際に避難先まで歩いてみよう

選択したそれぞれの避難先までの経路を地図で確認しましょう。
また、避難経路が安全かどうか、避難にどのくらい時間がかかるかについても確認しましょう。

4 災害や避難について、話し合ってみよう

あなたの家だけでなく、家族の職場や学校、よく行く場所などについても避難先や危険性を確認しましょう。

マイ・タイムラインを作ってみよう

マイ・タイムラインは、大雨や台風が接近しているときに自分や家族が「いつ」「何をするのか」をあらかじめ決めておく計画表のことです。
いつ災害が起こっても落ち着いて行動できるように個人や家庭の実情に合ったそれぞれのマイ・タイムラインを作成しておきましょう。

高潮の発生原因となる台風

熱帯低気圧が発生・発達

熱帯の海上では、上昇気流によって積乱雲が発生し、それらがまとまって渦を作ります。上昇気流が強まると、更に渦中心の気圧が下がり、大きく発達したものが「熱帯低気圧」です。

熱帯の海上

台風に成長

熱帯低気圧のうち、最大風速（10分間平均）が17m／秒を超えたものが「台風」です。7月～10月にかけて発生しやすく、8月に最も多く発生しています。

最大風速 17 m/秒以上

接近・上陸

1991年～2022年の32年間で発生した台風は800個。8月が最も日本に沿ったコースをたどります。このうち山口県へ接近したものは49個。平均して年に1.6個が接近しています。

中国地方への台風接近数 1.6 個/年平均

出典：台風の発生数（気象庁）／山口県に被害を及ぼした台風の記録（下関地方気象台）

山口県で起こった高潮災害

高潮発生のメカニズム

低気圧による「吸い上げ効果」と、強風の「吹き寄せ効果」によって広範囲の潮位が上昇するので、その海水量は非常に多く、更に高波を伴うことで、恐ろしい破壊力を持ちます。

気圧低下による「吸い上げ」

気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げる一方、中心付近の空気が海水を吸い上げることで、潮位が上昇しています。

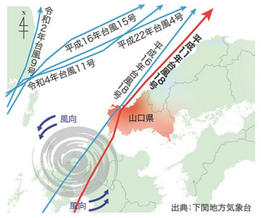
気圧が1hPa（ヘクトパスカル）下がると潮位は約1cm上がります。

強風による「吹き寄せ」

強風が海から陸へ吹いたとき、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の潮位が上昇します。

風速が2倍になると吹き寄せ効果は4倍になります。
「吹き寄せ」の効果は「吸い上げ」の 数倍！

過去に高潮災害を引き起こした台風経路



出典：下関地方気象台

左図は直近で山口県内や萩市内に高潮災害を引き起こした台風経路を示しています。

多くの台風が南から北へ進路をとり、山口県の西側や日本海側の海上を通過することによって高潮災害が起きています。

また、平成11年台風18号では山口県内各地で強風、大雨、高潮により、多くの被害をもたらしました。

平成11年台風18号 山口県での高潮による被害	
床上浸水	2492棟
床下浸水	7843棟

出典：災害をもたらした気象事例（気象庁）

令和4年台風11号（江崎地区）

他の災害にも備える

市のホームページで各種ハザードマップを確認できます。

萩市ホームページ 各種ハザードマップ関連

津波・高潮ハザードマップ　河川洪水ハザードマップ　土砂災害ハザードマップ　ため池ハザードマップ　地震ゆれやすさマップ

防災情報 【防災情報の伝達と入手方法】

防災情報の伝達方法

- 気象情報：雨量情報等を参考に気象庁が発表
- 高潮防災情報：山口県の潮位観測局で観測された情報
- 土砂災害情報：雨量情報等を参考に気象庁と山口県が発表
- 避難情報：各種情報から萩市が発令

→ 災害情報・避難情報等 →

- 報道機関等 テレビ（ケーブルTV等） ラジオ（エフエム萩等） SNS（X、フェイスブック、LINE）
- 萩市防災メール エリアメール
- 防災行政無線 屋外スピーカー等
- 町内会や自主防災組織の伝達方法

→ 住民のみなさん

防災情報の入手先

萩市公式ホームページ
https://www.city.hagi.lg.jp/
萩市内の避難情報や避難場所の開設状況、その他災害等に関する情報などを確認することができます。

萩市防災メール（すぐメールPlus+）
https://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/7/h66895.html
萩市からの緊急情報や行政情報を携帯電話などで受け取ることができるサービスです。

萩市総合アプリ【はぎなび】
https://www.city.hagi.lg.jp/site/line/
萩市のハザードマップや避難場所を確認することができ、気象庁・山口県などの様々な防災情報にすばやくアクセスできます。

山口県土木防災情報システム
https://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp/
山口県内の気象情報や雨量、河川水位、潮位などの観測情報を一元的に確認できます。

下関地方気象台
https://www.jma-net.go.jp/shimonoseki/
防災情報や地震・気象資料を分かりやすく提供し、災害への備えを支援するサービスです。

困った時の対応・連絡先

事件・事故がおきた！	警察110
火事が発生した！大ケガをした！	消防119
災害用伝言ダイヤル	171

録音するときは 1　再生するときは 2　※ガイダンスが流れるので、その指示に従って落ち着いて録音・再生してください。

萩市役所（代表電話）	0838-25-3131
萩市消防本部	0838-25-2772
萩警察署	0838-26-0110

わが家の防災メモ　必ず記入しておきましょう

	名前（家族・親戚・知人）	緊急時の連絡先（会社・学校・携帯電話）	生年月日/血液型
避難先			
家族の集合場所			

萩市高潮ハザードマップ　作成：令和8年2月　萩市 総務部 防災危機管理課　TEL：0838-25-3808（防災係）FAX：0838-21-3501

ハザードマップを確認 【災害リスクを確認しておこう！】

自分の住む地域の災害リスクを確認

①裏面のハザードマップを見て、自分の居場所の災害リスクを知る　②避難先を決める

当てはまる□にチェック

土砂災害（特別）警戒区域
山沿いは要注意！
土砂災害特別警戒区域　土砂災害警戒区域

木造の平屋、2～3階建て一軒家に住んでいる場合…

避難のタイミング
・外が暗くなる前に
・雨が強くなる前に

自宅以外の安全な場所へ
事前に決めてチェック
- 指定緊急避難場所
- 親戚・知人の家
- ホテル（事前予約して宿泊）
- 車中泊（安全な場所）※エコノミークラス症候群等に注意

指定緊急避難場所など自宅以外の安全な場所
安全な場所へ逃げる！

3m 以上
2階以上が浸水
早期の立退き避難が必要な区域

1～3m 未満
1階が浸水

すでに浸水や豪雨で外が危険なため家から離れられない場合…

今いる建物の上階 または 近くの高い建物へ
高い場所へ逃げる！　高いところへ垂直避難！

0.5～1m 未満
床上浸水

0.5m 未満
床下浸水

マンションの上階など浸水する深さより高い場所の場合…

自宅で安全確保　屋内安全確保
その場に留まる
地下は浸水深が低くても避難！

浸水しない

台風接近前の対策 【事前の備えと非常用品の備蓄】

台風接近前に自宅を離れる際の注意点

情報収集と早めの判断を！
- 最新情報を入手する
- デマに注意する

自宅を離れる前に！
- ガスの元栓を閉め、電気スイッチ、ブレーカーを切る
- 家族の安全を確認。親戚や知人に避難することを連絡する

徒歩で避難場所へ！
自家用車での避難は、以下の問題が発生するおそれがあります
- 交通渋滞
- 浸水による故障
- 緊急車両の妨げ

自宅や自宅周囲の安全対策

屋根
- □ トタンがめくれていないか
- □ 瓦のひび、割れ、はがれがないか
- □ アンテナがぐらついていないか

排水溝
- □ 排水溝にごみや土砂がつまっていないか

家の中
- □ 飛来物が入り込んでくるのを防ぐため、雨戸やカーテンを閉める
- □ 貴重品、動かせる家具・家電製品などを高い所に移動させる

外壁
- □ 壁に亀裂、はがれがないか

窓
- □ 窓枠にガタつきがないか
- □ 雨戸にガタつきがないか

その他
- □ 植木鉢などが飛ばないように固定しているか、室内に入れているか
- □ プロパンガスのボンベがしっかり固定されているか
- □ 庭木に添え木をしているか

雨どい
- □ 雨どいに木の葉やごみが詰まっていないか
- □ 継ぎ目のはずれや割れ、塗装のはがれがないか

ローリングストック

買い置きのものから定期的に使って、使った分を買い足し、備蓄していく方法。3日分を保ちながら、多めに備えているものを日常生活の中で消費していくため、特別な準備は必要ありません。

備える → 消費する → 買い足す → 備える

非常持ち出し品

避難するときに、当面必要となる最小限のものです。とっさに持ち出せるよう玄関の近くや寝室などに置いておきましょう。

食料品
- □ 飲用水
- □ 非常食

衣類・衛生用品
- □ 下着
- □ 上着
- □ タオル
- □ ウェットシート
- □ 洗面用具
- □ 歯ブラシ

貴重品
- □ 現金
- □ 保険証
- □ 預金通帳
- □ 印鑑

日用品など
- □ 充電器
- □ 懐中電灯
- □ 携帯ラジオ
- □ 予備電池

小さな子どもや高齢の方が居る家庭では
- □ 常備薬
- □ お薬手帳
- □ 離乳食・流動食
- □ 粉ミルク・ほ乳瓶
- □ 紙おむつ

ペットの居る家庭では
- □ ペットフード
- □ ケージ
- □ トイレ用品

事前に決めておこう！ わが家の「マイ・タイムライン」 いつ だれが なにをするのか を時間ごとに決めてみよう！

いつ：台風の状況	警戒レベル	気象情報 避難情報	住民のみなさんのとるべき行動：自分に当てはめて「マイ・タイムライン」を完成させよう！	行動目安	だれが なにをするのか：なまえ	なまえ	なまえ	なまえ	なまえ ※記入例
台風が発生 自分の居る場所は晴れていても、徐々に雲行きが怪しくなってくる	警戒レベル1	**早期注意情報**（気象庁が発表） 台風発生に関する気象情報（随時発表）	●テレビで天気予報を確認 ●家族全員の今後の予定を確認 ●備蓄品など防災グッズの確認（不足していれば買い出しへ） ●ハザードマップで避難場所、避難経路を確認	雨風が強まる前に行うことを完了させる時期					・気象情報の確認 ・家族の行動予定を確認 ・携帯電話の充電
台風接近の1日～半日前 暴風警報に切り替わる可能性が高い強風注意報（風速12m/秒以上） 雨や風がだんだん強くなる	警戒レベル2	台風や高潮は、接近・通過するまでに備える時間があります。事前に備え、被害をなくしましょう！ レベル2 氾濫注意報 レベル2 大雨注意報 レベル2 土砂災害注意報 **レベル2 高潮注意報** （気象庁が発表）	ハザードマップなどで自らの行動を確認しよう ●万一に備え、親戚・知人へ避難受入について相談 ●避難先への移動を検討 ●親戚・知人宅へ避難開始						・非常持出品を準備 ・避難方法を確認 ・浸水が想定される家家へ連絡する ・隣の一人暮らしのおばあちゃんへ声かけ
暴風域に入る数時間前 暴風警報、暴風特別警報（風速20m/秒以上） 風に向かって歩けない転倒する人もいる	警戒レベル3	**高齢者等避難**（萩市が発令） レベル3 氾濫警報 レベル3 大雨警報 レベル3 土砂災害警報 **レベル3 高潮警報** （気象庁が発表）	危険な場所からお年寄りなどは早めに避難または安全確保しよう 高齢者・乳幼児や避難に時間がかかる方は早めの行動を開始 ●非常持出品の準備・再確認 ●テレビで気象情報の確認	安全確保に要する時間に応じて行動を開始する時期					・自宅の両親へ備蓄品や動かせる電化製品などを移動させる ・実家の両親を避難に行く
台風最接近の数時間前 暴風域に入る 立っていられない飛来物に注意！	警戒レベル4	**避難指示**（萩市が発令） レベル4 氾濫危険警報 レベル4 大雨危険警報 レベル4 土砂災害危険警報 **レベル4 高潮危険警報** （気象庁が発表）	危険な場所から全員避難または安全確保しよう ・自宅内の浸水しない場所で安全を確保（屋内安全確保） ・指定緊急避難場所や車中泊が可能な安全な場所へ避難開始						・指定緊急避難場所へ移動 ・自宅で避難する場合、安全な部屋へ移動する
ここまでに必ず安全確保行動を終える/浸水想定が3mを超えるところは、事前に決めている指定緊急避難場所へ									
台風最接近 樹木が倒れる、トラックが横転するなど、屋外での行動は極めて危険 高潮は台風最接近より前に起こる可能性も！！	警戒レベル5	**緊急安全確保**（萩市が発令） レベル5 氾濫特別警報 レベル5 大雨特別警報 レベル5 土砂災害特別警報 **レベル5 高潮特別警報** （気象庁が発表）	すでに災害が発生している状況 命を守るための最善の行動を取ってください						

自然が相手なので、マイ・タイムラインどおりに進むとは限りません。
あくまで行動の目安として日頃から備えましょう。
気象情報や避難情報などをこまめにチェックして危険を感じたら臨機応変に避難のタイミングを判断しましょう。